

様式第4号

2022年4月1日

伊丹市議会議長  
加藤 光博 様

議員名 岸田 真佐人



2021年度政務活動費収支報告について

伊丹市議会政務活動費の交付に関する条例第6条の規定により、別紙のとおり  
2021年度政務活動費収支報告書を提出します。

(別紙)

2021 年度政務活動費収支報告書

議員名 岸田真佐人

1 収入

政務活動費 720,000 円

2 支出

(単位：円)

項目	金額	備考
調査研究費		
研修費		
広報費	720,000	チラシ作成、印刷 ウェブサイト作成と管理
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費		
人件費		
事務所費		
合計	720,000	

3 残額 0 円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。







参考書類 2 - 1

〔調査研究費、研修費、**広報費**、広聴費、要請・陳情活動費、会議費〕 ※該当項目を○で囲む

報 告 書

領収書 番 号	1, 2, 3, 4
------------	------------

日時	2021年10月7日 2022年2月17日	
場所 (視察地)	大阪府泉佐野市旭町13-17	
参加者 出席者 相手方	栗山 由壮	
目的 内容 結果 (成果) 等	<p>目的</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自身の活動方針を市民に伝えるため</li> <li>自身の活動報告をするため</li> <li>市民からの要望を集めるため</li> <li>市民に活動報告をするため</li> <li>ウェブサイトへの誘導をするため</li> <li>ウェブサイトを毎日更新するため</li> </ol> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ウェブサイト運営 <a href="https://itaminomirai.studio.design/top">https://itaminomirai.studio.design/top</a> 活動報告ブログ、活動方針、コメント</li> <li>ジャーナル発行 (別紙)</li> </ol> <p>成果</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>街頭活動中、ウェブサイトの内容をもとに市民の意見を聞いた</li> <li>ウェブサイトのコメント欄から市民の要望を聞いた</li> <li>ジャーナルを配布することで訪問活動を活性化することができた</li> <li>ジャーナルを配布することで公式ウェブサイトの閲覧者が増えた</li> <li>街頭でジャーナルを配布することで、市民との接点が生まれた</li> </ol>	
上記活動に 要した経費	経費の内容・積算基礎等	金 額(円)
	ウェブサイト更新作業料 平日は毎日	360,000
	Journal デザイン・コピーライト・編集 4回分	256,000
	Journal 印刷費 3800枚×3回 3700枚×1回	104,000
	税	72,000
	合計	792,000

《領収書添付台紙》

領収書 番 号	1
------------	---

【領収書添付枠】（スペースが不足する場合は裏面を使用）

※重ならないように貼付すること。

※按分の場合は、按分の内容と政務活動費として計上する金額を記載すること。

支出内容	ジャーナルのデザイン・コピーライト・編集 ウェブサイト更新作業 3か月分		
総経費	198,000 円	政務活動費として 計上する額	180,000 円

按分内容

ウェブサイト及びジャーナルの中で議員の写真や名前が占める割合は10%程度であるため、政務活動費を180,000円、自己負担を18,000円（10%支出）とした。

# 領収書

2021.10.07  
請求番号:20211007-01

岸田 まさと 様

下記のとおり正に領収いたしました。

合計金額 **¥198,000-**



栗山 由壮

〒598-0052

大阪府泉佐野市旭町13-17

Phone:090-9612-0173

mail:nombredesign@gmail.com

品番・品名	数量	単価	金額
Journal Vol.08			
デザイン制作費(ディレクション・デザイン・コピーライト・編集)	1	64,000	64,000
印刷費 3,800部	1	26,000	26,000
サイト更新料(4月・5月・6月)	3	30,000	90,000
小計			180,000
消費税(10%)			18,000
合計金額			198,000



# THE FUTURE OF ITAMI

Feature

ジェンダーギャップについて

Publisher

MASATO KISHIDA  
Itami-City council member



image photo

## ジェンダーギャップについて

家庭内のジェンダーギャップ——  
一体、いつまで家事育児は女性の役割なのか。



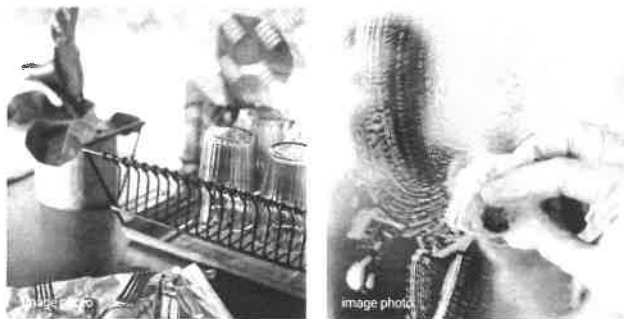
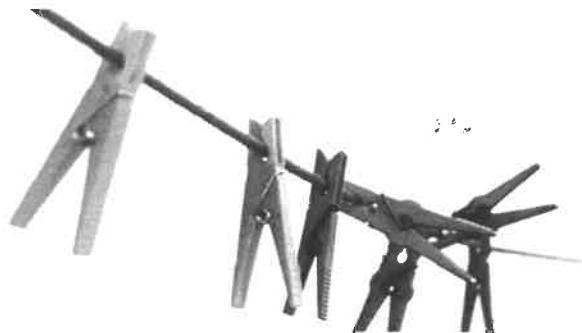
現代において働いている女性という存在は珍しいことでも何でもありません。1985年に男女雇用機会均等法が成立し、もう36年も経っているのですから当然といえます。まだまだ様々な場面において問題はありますが、決して珍しくはありません。ようやく近年において男性が家事育児を行うというのも珍しいというほどではなくなりました。子供向けのTV番組や公共の場において保護者の呼称も「お母さん」や「ママ」という表現も少なくなってきました。ジェンダーの多様化による認知も広がってきている影響もあり、保護者が必ずしも母親だけではないという配慮もあると思います。しかしながら、人目に触れる機会が少ない家庭内でのジェンダーギャップが問題として上がっている声を良く耳にします。現在、専業主婦の割合は全体の半数を切っています。つ

まり、半数以上の世帯は共働き世帯ということですが。1980年頃と比較すると専業主婦世帯と共働き世帯の割合はほぼ逆転しているかたちになります。現在の家庭内のジェンダーギャップはこのあたりの時代の変化に順応しているかが少なからず影響しているでしょう。自身の親世代の考え方と比較すると現代と真逆の価値観になります。加えて、コロナの影響によりリモートワークが増え、外で働いていた人も家庭内にいる時間が大幅に増えました。そうなると、もともとあった家庭内でのジェンダーギャップの問題がより顕在化します。しかしながら、多くの世帯が考え方や価値観の変化だけで健康的な家庭環境になるかというところではありません。大きな要因の一つとして、男女差の収入格差があります。男女間での収入と労働時間にあまり差がなければ、対等に家事育児を分担すればギャップはそれほど生まれにくいように思います。しかし現実には、男女差による収入や

労働時間の格差は確実にあります。極端な例をあげると、企業において長期的で重要な案件は女性を担当しづらいというような話がいまだにあります。この場合担当しづらい要因として産休・育児による現場からの離脱が挙げられます。こういった考え方の企業において女性は重要度の高く利益率の高い案件を担当しづらい、個人の能力とは関係なく収

入増やキャリアアップの機会が男性に比べて少ないと言えるでしょう。果たして機会損失の要因は被雇用者のせいなのでしょうか。しかし、これが要因だとすると男性の育児消化率の低さも頷けてしまいます。別の側面をみると、このような企業は、結婚・出産・体調不良・退職・休職予定のない人員の確保、不測の事態を考慮せず、予算と人員はギリ

ギリで進捗したいというのが本音でしょう。このような企業が増えると、未婚率が上がり、出生率が下がり、いつもギリギリの状態なので精神的にも過酷な状況が続きます。そのような環境で能力の高い人材を果たして確保し続けることが可能でしょうか。日本企業の生産性が永く問われていますが、こういったところの考え方も決して小さくないと思います。何よりもこういった企業が少子高齢化の一因になっているのは間違いありません。もし、このような企業が日本においてまだ多数派であるのなら多くの世帯が健康的な家庭環境を実現させることは、まだまだ険しいと言わざるをえないでしょう。このような社会のひずみは、いつも子どもや次世代に影響します。だからこそ、今私たちに出来ることは、個人の考え方を尊重し、各々が出来ることを家族のために行動することだと思います。それは、家事育児においても、自身の働き方においても同様に非常に重要なことではないでしょうか。



ギリで進捗したいというのが本音でしょう。このような企業が増えると、未婚率が上がり、出生率が下がり、いつもギリギリの状態なので精神的にも過酷な状況が続きます。そのような環境で能力の高い人材を果たして確保し続けることが可能でしょうか。日本企業の生産性が永く問われていますが、こういったところの考え方も決して小さくないと思います。何よりもこういった企業が少子高齢化の一因になっているのは間違いありません。もし、このような企業が日本においてまだ多数派であるのなら多くの世帯が健康的な家庭環境を実現させることは、まだまだ険しいと言わざるをえないでしょう。このような社会のひずみは、いつも子どもや次世代に影響します。だからこそ、今私たちに出来ることは、個人の考え方を尊重し、各々が出来ることを家族のために行動することだと思います。それは、家事育児においても、自身の働き方においても同様に非常に重要なことではないでしょうか。

THE FUTURE OF ITAMI!



いたみのみらい

もっと魅力ある伊丹に!

AERO CITY ITAMI



伊丹市議会議員 岸田 まさと

MASATO KISHIDA  
Itami-City council member

1964年生まれ。1989年から伊丹市で30年間、中学校教諭として勤務。2019年に伊丹市議会議員に当選。「教育環境から変えていく」をテーマに伊丹市を盛り上げ「安住したい街」「移住したい街」を目指します。



いたみのみらいWebサイト 皆様の貴重なご意見を随時募集しています。



SONG'S STORY MASATO'S SELECTION

アリラン 「コリア民謡」

アリラン アリラン

ア拉里ヨ

アリラン コゲロ

ノモカンダ

ナルル ポリゴ

カシヌン ニムン

シムリド モツガン

パルピョンナンダ

私をほったらかしてアリランという峠を越えていく人なんて4キロも歩いたら足が痛くなるに違いない！（岸田意訳）というほほえましい歌です。この曲を歌うとなぜか懐かしい気持ちになります。私の出身地である但馬は、出石神社が一宮で渡来人をまつています。自分のDNAに朝鮮半島から渡ってきた人のデータが混じっているような気がしてなりません。

CREDIT  
copyright | edit | nombre

《領収書添付台紙》

領収書 番 号	2
------------	---

【領収書添付枠】（スペースが不足する場合は裏面を使用）

※重ならないように貼付すること。

※按分の場合は、按分の内容と政務活動費として計上する金額を記載すること。

支出内容	ジャーナルのデザイン・コピーライト・編集 ウェブサイト更新作業 3か月分		
総経費	198,000 円	政務活動費として 計上する額	180,000 円

按分内容

ウェブサイト及びジャーナルの中で議員の写真や名前が占める割合は10%程度であるため、政務活動費を180,000円、自己負担を18,000円（10%支出）とした。

# 領収書

2021.10.07  
請求番号:20211007-02

岸田 まさと 様

下記のとおり正に領収いたしました。

合計金額 **¥198,000-**



栗山 由壮

〒598-0052  
大阪府泉佐野市旭町13-17  
Phone:090-9612-0173  
mail:nombredesign@gmail.com

品番・品名	数量	単価	金額
Journal Vol.09			
デザイン制作費 (ディレクション・デザイン・コピーライト・編集)	1	64,000	64,000
印刷費 3,800部	1	26,000	26,000
サイト更新料 (7月・8月・9月)	3	30,000	90,000
		小計	180,000
		消費税 (10%)	18,000
		合計金額	198,000

THE FUTURE OF ITAMI | Vol.09 2021

2021  
Vol. 09

# THE FUTURE OF ITAMI

Feature

通学路は社会の縮図

Publisher

MASATO KISHIDA  
Itami-City council member



image photo

## 通学路は社会の縮図

なくならない通学路での交通事故  
今こそ、多様性を尊重し、子育て世代を大切にできる社会に。



2021年6月28日、千葉県で  
下校途中の小学生児童5人が死  
傷した交通事故が起きました。  
数年一度、このような交通事  
故が必ず起こっています。自動車  
は年々、安全性能の改善が求め  
られており、このまま自動運転が  
標準になれば、こういった事故は  
大幅に減るでしょう。しかし、そ  
れはまだ少し先の話です。それに  
自動車を改善しても、今回のよ  
うな飲酒運転やペダルの踏み間  
違いなどが存在する限り不安は  
拭えません。子どもの側を通行す  
るときには徐行運転する、という  
法律を守るドライバーも少数で  
す。国土交通省によると通学路  
の安全対策事例として様々な取  
り組みが紹介されています。それ  
なのになぜ、対策が不十分な  
のでしょうか。結局、どの対策も人



員と予算が必要になるので、通学路にかかる予算よりも優先順位が高い案件があるということなのでしょう。しかし、尊い子どもたちの命を守り、痛ましい事故を根絶するということは、社会にとつて非常に重要なはずです。この問題は子育て世帯以外には関係ないというものではありません。厚生労働省によると、2020年の出生率は1.3で、新生児数は、およそ84万人です。この数値は5年連続で前年を下回っています。つまり20年後、成人を迎える人数は84万人を下回るということなのです。第2次ベビーブームの頃は出生率が2.1ありましたが。この人たちは、現在40代後半ですが、年齢ごとに200万人ほどの人口があります。この年代がリタイヤし始める頃、就職する人たちは毎年80万人程度です。リタイヤする人たちに対して就職する人が半分以下になって



しまうということなのです。そうなる  
と現役世代がものすごい勢いで減っていきます。所帯を持って家を買ったり、家族で移動できる自動車を買ったりといった消費も激減するでしょう。当然、内需の落ち込みによって経済が低迷する可能性が大幅です。バブル以降のデフレも、現役世代人口の減少が原因だという説があります。

その説によれば20年後の日本経済は大ピンチを迎えることになりそうです。ある程度の人口減少はしょうがないとしても、現在進行しているような急激な少子化は食い止めなければいけません。そんな現状とは裏腹に出生率は一向に改善しません。若い世代が結婚や子育てに不安を感じているのは明らかです。これは日本

社会が経済発展を優先し、子育てや教育を後回しにしたツケともいえます。危険な通学路が放置されているのも、その一例でしょう。さらに今の日本では、多様性も十分に尊重されているとは言えません。情報が一瞬で世界に拡散するようになった現在、そんな日本と世界のギャップが表面化するようになりました。世界の大きな流れが、ジェンダー平等やLGBTQへの配慮に傾く中、日本の後進性が際立っています。2016年の統計によると、日本で生まれた30人に1人の新生児は、両親またはどちらかの親が外国籍です。多様性を尊重することが出生率の改善につながる時代は、すでに始まっています。様々な議論のあつた東京オリンピックですが、多様性を認め、子育て世代を大切にできる社会に変えていくよい機会にしたいと思います。

THE FUTURE OF ITAMI!



いたみのみらい

もっと魅力ある伊丹に!

AERO CITY ITAMI



伊丹市議会議員 岸田 ますと

MASATO KISHIDA  
Itami-City council member

1964年生まれ。1989年から伊丹市で30年間、中学校教諭として勤務。2019年に伊丹市議会議員に当選。「教育環境から変えていく」をテーマに伊丹市を盛り上げ「安住したい街」「移住したい街」をめざします。



いたみのみらいWebサイト 皆様の貴重なご意見を随時募集しています。

SONG'S STORY MASATO'S SELECTION

竹田の子守唄

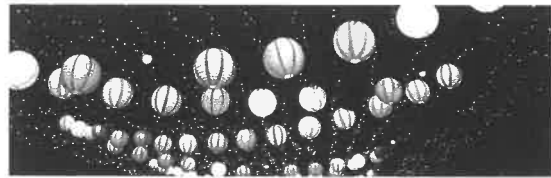
〔伝承曲〕

守りもいやがる 盆から先にや  
雪もちらつくし 子も泣くし

盆がきたとて なにうれしかろ  
かたびらはなし 帯はなし

この子よう泣く 守りをばいじる  
守りも一日 やせるやら

はよもいきたや この在所越えて  
むこうに見えるは 親のうち



フォークグループの赤い鳥  
が歌い、1971年にシン  
グルレコードとして販売  
した曲です。学校の合唱で  
よく歌われる「翼をください  
い」がB面でした。京都市  
伏見区の被差別部落に伝  
わる歌がもとになっている  
そうです。貧しさから学校  
に行けず、赤ん坊の世話を  
して日々を過ごす少女の  
心情が胸にせまり、差別の  
ない世界をめざそうという  
パワーが湧いてきます。

《領収書添付台紙》

領収書 番号	3
-----------	---

【領収書添付枠】（スペースが不足する場合は裏面を使用）

※重ならないように貼付すること。

※按分の場合は、按分の内容と政務活動費として計上する金額を記載すること。

支出内容	ジャーナルのデザイン・コピーライト・編集 ウェブサイト更新作業 3か月分		
総経費	198,000 円	政務活動費として 計上する額	180,000 円

按分内容

ウェブサイト及びジャーナルの中で議員の写真や名前が占める割合は10%程度であるため、政務活動費を180,000円、自己負担を18,000円（10%支出）とした。

# 領収書

2022.02.17  
請求番号:20220217-01

岸田 まさと 様

下記のとおり正に領収いたしました。

合計金額 **¥198,000-**



品番・品名	数量	単価	金額
Journal Vol.10			
デザイン制作費(ディレクション・デザイン・コピーライト・編集)	1	64,000	64,000
印刷費 3,800部	1	26,000	26,000
サイト更新料(10月・11月・12月)	3	30,000	90,000
		小計	180,000
		消費税(10%)	18,000
		合計金額	198,000

THE FUTURE OF ITAMI | Vol.10 2021

2021  
Vol. 10

# THE FUTURE OF ITAMI

Feature

本当に必要なことについて

Publisher

MASATO KISHIDA  
Itami-City council member



# 本当に必要なことについて

本来、めざしていた『豊か』な暮らし——  
現代社会においての余暇と『好きなこと』とは。

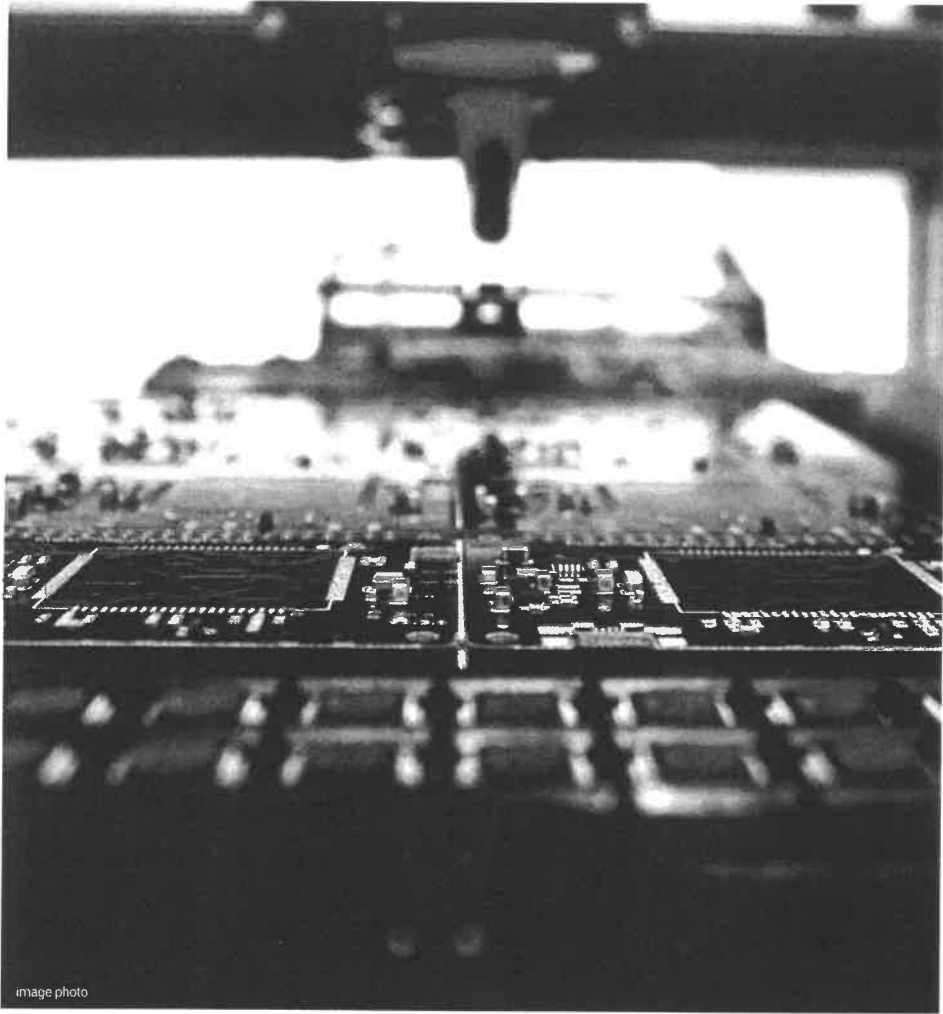


image photo

日本の貧困化が叫ばれ久しいですが、労働人口が減り続け歯止めが効かない状況です。労働人口が減っていくとしても生産性を高めるための方法や、少子化を抑制する方法を模索していくことは今後、社会において非常に重要な課題になります。しかし、即効性のある解決法の施行は困難でしょう。そこで現状、私たちにとって本当に必要なことは一体何であるかを今だからこそ考え直す良い機会ではないでしょうか。18世紀にイギリスで産業革命が起こり、今日の技術革命、IT革命に至るまで一貫して社会が目指しているのは人々の『豊か』な暮らしだと思います。時間が掛かる労働をテクノロジーにより短縮し、余暇に『好きなこと』をして暮らす。それが本来目指していた『豊か』な暮らしだったと

思います。ところが、いつの頃からか『豊か』というものが曖昧な表現であるためか『資本』に置き換わりました。『資本』は目に見え、数字で表すことができるため、簡単に比較することができるのです。元々は、『豊か』を実現させるための手段であつたはずの『資本』が目的になりました。結果、より大きい数字を求めることが『豊か』だという価値観になっていきました。そうなるかとはもう、企業も個人であつても効率化を図り、利潤追求による行動指針の優先順位が決まっています。より早く、より多く、そのような社会にゆとりや余暇はありません。今日では、家庭や子どもを持つことすら『コスパ』が悪いと言ふ人が出てきています。投資や回収の面から見れば、確かにそれはそうでしょう。しかし、家庭を持ち、子孫を残すということは商売ではありません。このような資本主義の末期におい

て本当に必要なことというのは徹底的に削ぎ落としてきた必要不可欠の外にあるのではないのでしょうか。映画や音楽、演劇、絵画、写真、アニメや漫画、ゲーム等の趣味は生活していく上で必要不可欠の外にあるものです。生活する上でそれらが無くても何も困ることはありません。消費するだけで支払った資金を回

収できる見込みもほぼありません。『コスパ』は悪いと言つていいでしょう。それでも、それらが求められるのは『豊か』な暮らしにとつては必要な『好きなこと』だからではないでしょうか。また、日本において多くの人が所得は上がらず、物価だけが上昇傾向にあります。そのような中、収入や支出において、今の自分に本

当に必要なことを選択することが出来ているでしょうか。周りと比べてどうかを基準にしてはいないでしょうか。他者との比較が基準になると上を見れば際限もなく、『好きなこと』が入る余地はありません。だからこそ、自分にとって何が必要であり、それを実現するためには、どの程度時間や資金が必要かを考え、目標にすることが建設的ではないのでしょうか。先に挙げた映画や音楽、演劇、絵画、写真、アニメや漫画、ゲーム等のアートにおいてはそもそもが、社会における課題を提起し、それを自己との対話や、咀嚼をして創造することが本来の目的だと思います。近年では、教育や経済においても非常に重要な要素だと言われています。目的もなく際限のない数字を追いかけるのではなく、社会において必要な価値を創造する余暇について今一度、考えてみるのも良いのではないのでしょうか。



THE FUTURE OF ITAMI!



いたみのみらい

もっと魅力ある伊丹に!

AERO CITY ITAMI



伊丹市議会議員 岸田 まさと

MASATO KISHIDA  
Itami-City council member

1964年生まれ。1989年から伊丹市で30年間、中学校教諭として勤務。2019年に伊丹市議会議員に当選。「教育環境から変えていく」をテーマに伊丹市を盛り上げ「安住したい街」「移住したい街」をめざします。

いたみのみらいWebサイト 皆様の貴重なご意見を随時募集しています。



SONG'S STORY  
MASATO'S SELECTION



北風小僧の寒太郎

〔作詞〕井出 隆夫

〔作曲〕福田 和禾子

北風小僧の寒太郎

今年も町までやってきた

ヒューン ヒューン

ヒュルルンルンルンルン

冬でござんす

ヒュルルルルルン

1972年に作られ、最初に歌ったのは田中星児で、番組は「おかあさんといっしょ」でした。その後、マチャアキ(塚正章)と東京児童合唱団の歌が、「みんなのうた」で流れてから人気が出たそうです。しかし私がこの歌を知ったのは子育て中だった1990年代です。冬がやってくるイメージが、じわつと心に染みってきます。冬の北風も悲しい、というイメージをひっくり返してくれる素敵なメロデーだと思います。



《領収書添付台紙》

領収書 番 号	4
------------	---

【領収書添付枠】（スペースが不足する場合は裏面を使用）

※重ならないように貼付すること。

※按分の場合は、按分の内容と政務活動費として計上する金額を記載すること。

支出内容	ジャーナルのデザイン・コピーライト・編集 ウェブサイト更新作業 3か月分		
総経費	198,000 円	政務活動費として 計上する額	180,000 円

按分内容

ウェブサイト及びジャーナルの中で議員の写真や名前が占める割合は10%程度であるため、政務活動費を180,000円、自己負担を18,000円（10%支出）とした。

# 領収書

2022.02.17  
請求番号:20220217-02

岸田 まさと 様

下記のとおり正に領収いたしました。

合計金額 **¥198,000-**



栗山 由壮

〒598-0052  
大阪府泉佐野市旭町13-17  
Phone:090-9612-0173  
mail:nombredesign@gmail.com

品番・品名	数量	単価	金額
Journal Vol.11			
デザイン制作費(ディレクション・デザイン・コピーライト・編集)	1	64,000	64,000
印刷費 3,700部	1	26,000	26,000
サイト更新料(1月・2月・3月)	3	30,000	90,000
		小計	180,000
		消費税(10%)	18,000
		合計金額	198,000

THE FUTURE OF ITAMI | Vol.11 2022

2022  
Vol. 11

# THE FUTURE OF ITAMI

Feature  
DXの障壁について

Publisher  
MASATO KISHIDA  
Itami-City council member



# DXの障壁について

経済通産省も推進に力を入れているにもかかわらず一向に進まないDXの障壁とは一体何なのか



image photo

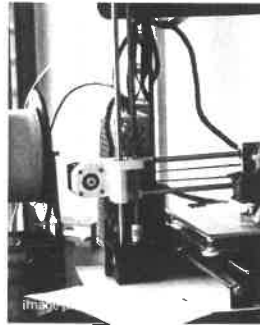
経済通産省が現在、公開している「DXレポート」によると、このまま現状の課題が解決せず2025年に突入すると年間最大12兆円(現在の約3倍)の経済損失が生じる可能性がある。とまで書いてあります。また、9割以上の企業がDXに全く取り組めていない、または既存のシステムを一部、ICT化を行っただけで十分と考えているようです。そもそもDXというのは、単なる「変革」ではなく、デジタル技術による破壊的な変革を意味するデジタル・ディスラプションつまり、既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらすものです。日本以外の先進国では既に成熟しており、日本だけが周回遅れの状況です。さらに日本においては、いち早く超高齢化社会を迎えます。高齢

者がこれまで培ってきた知識や経験が現代社会において通用しなくなってきました。一概に年齢だけではくくる事はできませんが、また一から若者と一緒に新しいテクノロジーや変化を習得する事や、時流に乗って変化していく事に対して消極的になるのも理解できません。しかし、日本の経済がこのままでは危ないという中、自身だけが変化をせずに無傷で済むというのはごく限られた人だけではないでしょうか。また、高齢者だけでなく業界によってテクノロジーや変化の乏しい業界も多数存在し、そうでなくとも自身の業務に直接関係がなければ、高齢者同様にアレルギーがある方も多いのかもしれませんが。だからといって多くの人が世界基準を無視するとなると、2025年に予想される年間最大12兆円の経済損失まで待つたなしです。そうならないためにも今現在、世界で何が起こり、どう

すれば適応出来るのかを考え、行動に移さなければいけない状況です。日本は島国であり、多様性に対して明るくない国民性があるかもしれません。しかし、若い労働人口も年々減少していく中、年功序列や男性優位社会はもはや存続自体が難しく、これからの高齢者は実力でデジタルネイティブ世代や国籍の違う人種と肩

を並べていく必要があります。もはや、テクノロジーや変化が苦手というのは通用しないでしょう。また、台湾のデジタル担当大臣のオードリー・タン氏が提唱している『リバーサメンターシップ』という制度は35歳以下の若手にベテラン勢が苦手なIT分野のアドバイスをもらい、逆に若手の知らない知見をアドバイスすると

いった双方にとってより良い関係を築く、時代を体現した素晴らしい制度だと思えます。しかし、今の日本においてこの制度がそんなに受け入れられる組織はどのくらい存在するのでしょうか。そして、今後もこういった次世代の制度が次々と現れ、社会に組み込まれる事になるでしょう。そこで重要なのが、他者の価値観を認め尊重することではないでしょうか。さらに、知らない事を怖がらず好奇心や興味を持つという事も重要な要素の一つだと思います。人は、知らない物事に本能的に恐怖を感じる生き物です。恐らく、テクノロジーに対するアレルギーの根本的な原因は「知らない」「よく分からない」といったところから始まるのではないのでしょうか。今だからこそ、自分の知識が完全ではないことを知っている」というソクラテスの『無知の知』が必要な時代なのかもしれません。



THE FUTURE OF ITAMI!



いたみのみらい

もっと魅力ある伊丹に!

AERO CITY ITAMI



伊丹市議会議員 岸田 ますと

MASATO KISHIDA  
Itami-City council member

1964年生まれ。1989年から伊丹市で30年間、中学校教諭として勤務。2019年に伊丹市議会議員に当選。「教育環境から変えていく」をテーマに伊丹市を盛り上げ「安住したい街」「移住したい街」をめざします。



いたみのみらいWebサイト 皆様の貴重なご意見を随時募集しています。

SONG'S STORY MASATO'S SELECTION

一年生になったら

「作詞」まじみちお

「作曲」山本直純

一年生になったら

一年生になったら

友だち百人できるかな

百人で食べたいな

富士山の上でおにぎりを

ばっくんばっくん

ばっくんと

最高に前向きな歌です。作られたのは1966年で「巨人・大鵬・卵焼き」時代です。日本の人口が1億人を突破し、ビートルズも来日し、高度経済成長の真ん中でした。それから50年

以上がたち、日本社会は大きく変化しました。それでも入学する子どもたちのワクワク感は変わらないというところが、妙に心を打ちます。やっぱり学校ってそういうところなんです。

CREDIT  
copyright | edit | nombre